

令和5年度

和泉市教育委員会の点検・評価報告書

(令和4年度事業対象)

令和5年9月

和泉市教育委員会

本報告書について

本報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に規定され、すべての教育委員会にて毎年、点検・評価及び議会への提出、公表が義務付けられているものです。

点検・評価にあたっては、学識経験者の知見も活用し、とりまとめを行っています。

また、本点検・評価は、教育大綱の策定を受け、教育委員会における施策を総合的かつ計画的に推進するために、取組活動を包括的に整理した「和泉市教育振興基本計画」の進行管理を兼ねており、その結果を次年度以降の施策の改善、推進につなげることをしています。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I	点検・評価の流れ	・・・	5	10	我が町における子どもの育成	・・・	32
II	和泉市教育大綱	・・・	6	11	健康教育・体力向上	・・・	34
III	和泉市教育振興基本計画	・・・	6	12	食育及び学校給食	・・・	36
IV	点検・評価報告書	・・・	11	13	学校保健の充実	・・・	38
	1 公立保育所・公立幼稚園の運営	・・・	12	14	教材の充実・管理経費の適正化	・・・	40
	2 公立保育所・公立幼稚園の施設維持管理	・・・	15	15	小中学校の施設維持管理	・・・	42
	3 民間園への支援と連携	・・・	17	16	生涯学習環境づくり	・・・	44
	4 学力向上	・・・	19	17	社会教育環境づくり	・・・	46
	5 英語教育・読書教育	・・・	22	18	スポーツ施設の運営	・・・	48
	6 教職員の資質向上	・・・	24	19	スポーツ活動の普及	・・・	50
	7 生徒指導・教育相談体制の充実	・・・	26	20	文化芸術活動	・・・	52
	8 道徳教育	・・・	28	21	文化財の調査研究・保護継承	・・・	54
	9 人権を尊重した教育	・・・	30	22	文化財の活用	・・・	56

23	美術館の運営	・・・	58
24	青少年の健全育成	・・・	60
25	放課後等の児童の健全育成	・・・	62
26	青少年センター活動	・・・	64
27	図書館の運営	・・・	66
28	子どもの読書推進	・・・	68
29	国際交流	・・・	70
V	参考資料		
1	教育委員会の活動状況	・・・	72
2	和泉市教育委員会評価委員会規則	・・・	78

I 点検・評価の流れ

●評価委員会委員

	氏名	職名	任期
委員長	平良 伸哉	大阪芸術大学 初等芸術教育学科 特任教授 (元校長)	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日
委員	杉田 菜穂	大阪公立大学 経済学部教授	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日
委員	川口 厚	桃山学院大学 経済学部准教授	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日

●点検・評価報告書の作成

各所管部局において、令和4年度に取り組んだ事業について、「和泉市教育大綱」、「和泉市教育振興基本計画」に掲げる目標等を踏まえた全体評価をはじめとして、特に効果のあった内容、今後の課題等の自己評価を実施

●第1回評価委員会【令和5年5月11日(木)】

対象部局 : 教育・こども部

●第2回評価委員会【令和5年5月18日(木)】

対象部局 : 生涯学習部

第1回、第2回評価委員会では、各委員から評価内容の確認、評価の視点等について、意見を聴取

●第3回評価委員会【令和5年8月3日(木)】

対象部局 : 教育・こども部、生涯学習部

第1回、第2回評価委員会での意見等を踏まえた修正内容の確認等を実施

●令和5年第8回教育委員会定例会【令和5年8月24日(木)】

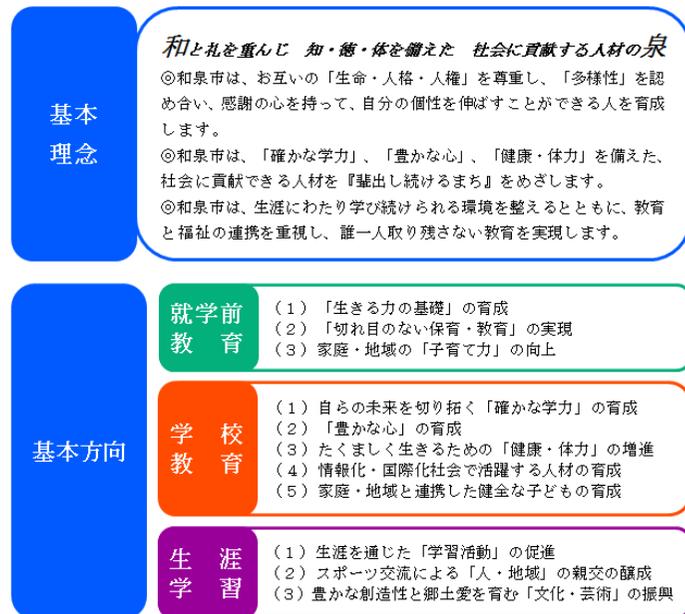
議会への提出、公表する案について報告

II 和泉市教育大綱

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定に基づき、平成27年11月に「和泉市教育大綱」を定め、令和4年3月に改訂しました。

この「和泉市教育大綱」は、和泉市における教育、学術及び文化の振興を図るための基本理念と基本方向を示すもので、市長と教育委員会で構成する総合教育会議において協議し、定めたものです。

〈和泉市教育大綱の体系〉



III 和泉市教育振興基本計画

和泉市教育振興基本計画は、「和泉市教育大綱」を受け、教育委員会における施策を総合的かつ計画的に推進するよう、平成28年3月に策定し、令和4年3月に改訂しました。

本計画の構成は、和泉市教育大綱に基づき、「就学前教育」、「学校教育」、「生涯学習」で構成することとし、各項目の目標・取組方針を整理しています。

なお、ここで整理した目標の実現をめざして、29項目の取組事業を点検・評価報告書で進行管理を行うこととしています。

1. 就学前教育

目標	取組方針	取組項目番号
(1)「生きる力の基礎」の育成		
学習の芽生えを育む	健やかな成長を促すためのさまざまな活動を通して好奇心や探究心を養います	1
社会生活における望ましい習慣や態度を養う	発達段階に即した指導を行います	1
人と関わる力を養うとともに、身近な人への愛情・信頼感を深める	集団生活の中で、友だちや先生との交流を行います	1
(2)「切れ目のない保育・教育」の実現		
幼稚園・保育所・認定こども園と小学校相互の保育・教育内容の理解を深める	幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との交流・連携を図ります	1
安心して小学校に就学する	就学前教育を終了した子どもたちが、安心して小学校に就学できる環境を整えます	1
支援体制を確保する	障がいや発達状況に配慮した支援の充実を図ります	1

目標	取組方針	取組項目番号
(3)家庭・地域の「子育て力」の向上		
子育ての孤立化や不安の解消	子育て家庭のサポート体制の充実を図ります	1
学習機会の提供	発達段階に応じた家庭教育について学習する機会を提供します	1
子育て環境の整備	家庭、地域等との連携により、社会総がかりで育てる環境を整えます	1
(4)需要と供給バランスのとれた公立園及び民間園の提供		
待機児童の解消	公立園と民間園が連携し、待機児童の解消に取り組みます	1・3
公立園の適正配置	需要と供給の状況や公立園の老朽化などを踏まえたファシリティマネジメントに取り組みます	2
(5)健全な育成を支援するための公立園の環境充実		
安全で過ごしやすい施設環境の提供	園児がいきいきと過ごすことができる環境づくりや、老朽化する施設、備品等の計画的な更新に取り組みます	2

目標	取組方針	取組項目番号
(6) 民間園への支援・連携の充実		
民間園運営等に対する補助及び各種情報の共有化	民間園が実施する幼児教育・保育等について、施設型給付・補助金等の運営支援を行うと共に、就学前教育を取り巻く各種情報の共有に取り組めます	3

2. 学校教育

目標	取組方針	取組項目番号
(1) 自らの未来を切り拓く「確かな学力」の育成		
豊かな知識や技能を身につけた児童生徒を育む	基礎学力の確かな定着を図るとともに、社会の変化に対応した教育に取り組めます	4
主体的に判断・行動し、問題解決に導くことができる資質と能力を備えた児童生徒を育む	「思考力・判断力・表現力」を身につけることができる教育に取り組めます	4
	知的活動の基盤となる国語能力を向上させる読書活動に積極的に取り組めます	5
児童生徒一人ひとりの学び意欲と個性をひきだす	教職員の資質と能力の向上を図ります	6
	「わかる授業づくり」を推進します	4
(2) 「豊かな心」の育成		
人間性豊かな児童生徒の育成を育む	道徳的価値を深めることができる環境づくり、授業づくりに取り組めます	8
	豊かな人権感覚をもって行動し、一人ひとりの価値観や性別・国籍・障がいなどの「多様性」を認め合うとともに、人を思いやり、一人ひとりの感性を大切に育てる児童生徒を育みます	9
規範意識と豊かな情操を培う	「いずみあいさつ運動」をはじめ、地域で子どもたちを温かく見守る人々との交流を促進します	10

目標	取組方針	取組項目番号
(2)「豊かな心」の育成		
だれもが安心して過ごせる学校づくりの推進	いじめ、暴力行為、不登校などの未然防止や早期発見、早期対応に向けて必要な措置を講じるとともに、児童生徒が抱える課題の多様化に対応できる体制の構築に取り組めます	7
(3)たくましく生きるための「健康・体力」の増進		
成長の基礎となる健康・体力を増進する	運動習慣の定着に向けた取り組みを推進します	11
	心身両面の健全な発達を育む取り組みを推進します	11
心身の健康を増進する	自校調理による安全で栄養バランスの良い学校給食を提供し、家庭・地域と連携した食育を推進するとともに、食への理解を深めます	12
	各種健康診断や学校内事故に対する対応体制の確保など授業を受けるための環境支援に取り組めます	13
(4)情報化・国際化社会で活躍する人材の育成		
郷土和泉を誇りに思い愛する心を育む	郷土の伝統と文化を正しく理解し、深めるための教育に取り組めます	8

目標	取組方針	取組項目番号
国際社会に貢献する人材を育む	世界の人々と協働するため、国際社会への理解や英語力とコミュニケーション能力を高める教育に取り組めます	5・9
	社会の情報化に対応した資質・能力を育む	デジタル機器を積極的に活用した教育に取り組めます
(5)家庭・地域と連携した健全な子どもの育成		
自ら進んで家庭で学習する児童生徒を育む	家庭・地域と連携し、基本的な生活習慣や社会的マナーを身につける教育に取り組めます	10
地域とともに歩む学校づくりの推進	社会総がかりで子どもを育む環境を整えます	10
(6)教育環境の充実		
学びの意欲を向上させる学習環境の提供	児童生徒が授業を受けやすい学習環境・教職員が授業を行いやすい環境づくりに取り組めます	14
安全・安心で快適な学校環境の提供	学校生活が快適に過ごせるような環境整備や少子化傾向・施設の老朽化を勘案したファシリティマネジメントに取り組めます	15

3. 生涯学習

目標	取組方針	取組項目番号
(1)生涯を通じた「学習活動」の促進		
一人ひとりが、生涯にわたり生きがいをもって豊かな人生を歩む	必要なときに必要な学びを提供できる環境整備に努めます	16
学習の成果を生かして活躍することができる場の提供と、地域に貢献する人材の育成、さまざまな交流やコミュニティの創出	学習の成果をいかして活動できる場の提供に取り組みます	16
	多様化する時代に即した地域社会、コミュニティの形成がなされる環境づくりに取り組みます	17
(2)スポーツ交流による「人・地域」の親交の醸成		
誰もが身近な場所でスポーツに親しみ、生きがいや健康を育む	スポーツを行う環境を整えます	18
スポーツを通じて地域の仲間たちと親交を深める	スポーツ活動の仕組みづくりに取り組みます	19
(3)豊かな創造性と郷土愛を育む「文化・芸術」の振興		
市民生活を心豊かで、潤いあるものとする	市民の創造性豊かな文化・芸術活動を支援します	20
地域の歴史資源や文化資源の保全に努めるとともに、これら資源に触れ合う機会を創出し、市民の誇りと郷土愛を育む	文化財の調査研究・保護継承に取り組みます	21
	史跡公園や歴史館など歴史学習の場の提供・活用に取り組みます	22
	久保惣記念美術館の施設や所蔵品を活かし美術に触れ合う機会・活動の場の創出に取り組みます	23

目標	取組方針	取組項目番号
(4)将来を担う青少年の育成		
健やかな青少年の育成	社会環境が及ぼす青少年への影響配慮や地域による見守りなどに取り組みます	24
	安全・安心して過ごせる児童の放課後活動の場の提供や次世代育成の観点による放課後活動対策に取り組みます	25
	子ども同士の交流ができる活動の場の提供に取り組みます	26
(5)生涯における読書振興		
生涯を通じた学習の一翼を担う読書の振興	図書を提供だけでなく調査・探究を手助けする情報拠点として、図書館の管理・運営に取り組みます	27
	子どもたちが読書を通じ生きる力を育めるよう、子どもの頃から読書に親しめる環境づくりに取り組みます	28
(6)国際交流の推進		
多様な価値観を学び認め合う国際交流の推進	国籍や文化の違いを超えて、互いを尊重し、ともに活躍できるグローバル人材育成のため、国際交流の推進に取り組みます	29

IV 点検・評価報告書

教育委員会活動における評価・点検については、和泉市教育振興基本計画の進行管理を兼ねることとしています。

については、和泉市教育大綱、和泉市教育振興基本計画の目標を達成するために推進している事業を29事業に分類し、その事業単位でとりまとめを行い、全体的な取組評価だけでなく、令和4年度における特に効果のあった内容や次年度への課題を整理しています。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	1	事業名	公立保育所・公立幼稚園の運営	担当課	教育・こども部こども未来室幼保育成担当、 学校園管理室保健給食担当、学校教育室教育センター
--------	---	-----	----------------	-----	--

予算額	710	百万円	決算額	513	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
「生きる力の基礎」の育成	学習の芽生えを育む	健やかな成長を促すためのさまざまな活動を通して、好奇心や探求心を養います	①絵本の読み聞かせなどの情操教育 ②自然に親しむ園外活動などの体験学習 ③野菜の栽培などの菜園活動、食事の手伝いやクッキングなどの食育
	社会生活における望ましい習慣や態度を養う	発達段階に即した指導を行います	④災害避難訓練・消火訓練・不審者対処避難訓練
	人と関わる力を養うとともに、身近な人への愛情・信頼感を深める	集団生活の中で友だちや先生との交流を行います	⑤国際理解教育の推進

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
「切れ目のない保育・教育」の実現	幼稚園・保育所・認定こども園と小学校相互の保育・教育内容の理解を深める	幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との交流・連携を図ります	⑥保育士・幼稚園教員と小学校教員の合同研修並びに接続期カリキュラムの研究
	安心して小学校に就学する	就学前教育を終了した子どもたちが、安心して小学校に就学できる環境を整えます	⑦小学校授業見学や交流(分散やWEB等の活用)
	支援体制を確保する	障がいや発達状況に配慮した支援の充実を図ります	⑧巡回相談を行い助言、加配職員の配置

点検・評価報告書(令和4年度事業)

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
家庭・地域の「子育て力」の向上	子育ての孤立化や不安の解消	子育て家庭のサポート体制の充実を図ります	⑨育児教室・園庭開放の実施(在宅児)
	学習機会の提供	発達段階に応じた家庭環境について学習する機会を提供します	⑩子育て支援室等関係機関と連携し学習会等の案内
	子育て環境の整備	家庭、地域等との連携により、社会総がかりで育てる環境を育てます	⑪関係機関と連携し、子育てに関する情報提供

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
需要と供給のバランスのとれた公立園及び民間園の提供	待機児童の解消	公立園と民間園が連携し、待機児童の解消に取り組みます	⑫任期付職員・会計年度職員の採用

●令和3年度の課題

- ・新型コロナウイルスの感染が広がる中で、実施できなかった取組みがある。交流の形を検討し、実施していく必要がある。
- ・幼保小の架け橋プログラムの実施に向けて公立だけではなく民間園と共に進めていく必要がある。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

「生きる力の基礎」の育成	<p>①職員による日々の絵本の読み聞かせや地域人材活用による読み聞かせを行い、絵本に十分親しむことで情操教育につながった。</p> <p>②③新型コロナウイルス感染対策を講じながら実施することができ、経験を通して好奇心や探究心が育った。</p> <p>④災害避難訓練・不審者対処避難訓練を毎月行い、年に1回小学校等と連携した訓練も行い、社会生活に必要な行動を身につける経験を積み重ねることができた。</p> <p>⑤ALT(外国語指導助手)や地域人材を活用し、他国の言葉や遊びに触れ、人と関わる力の育成につながった。</p>
「切れ目のない保育・教育」の実現	<p>⑥⑦小学校と連携した合同研修や学校・園の見学を民間園にも働きかけ実施し、違いや相互理解が深まった。WEB研修も含め15件で延べ527人の参加があった。</p> <p>⑧心理士と関係機関で公民36園の巡回相談(前期・後期)を行い、子どもの行動観察・助言をし、必要な職員配置をすることで要支援児保育が充実した。</p>
家庭・地域の「子育て力」の向上	<p>⑨⑩⑪人数制限や事前受付等の新型コロナウイルス感染対策を講じながら毎月1～2回の園庭開放・育児教室を実施することで遊びの提供や育児に関する相談に応じたり、関係機関と連携して発達に関する学習会や子育て広場などの案内をしたり、子育て家庭のサポートができた。</p>
需要と供給のバランスのとれた公立園及び民間園の提供	<p>⑫広報・ホームページやハローワーク、養成校に就職案内を行い保育士確保に努めたが、会計年度任用職員の応募が少なく雇用が思うようにできなかった。任期付職員採用については、2回募集を実施し10人の定員に対して12人の応募があったが、5人が辞退、3人が基準点を満たさなかったため4人の採用となった。</p>

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

⑦新型コロナウイルス感染症の影響で小学校との交流行事の実施が少なかった。今後は感染対策を講じながら交流方法を検討し交流の継続を図っていく。

※予算額と決算額の差異(197百万円)の要因

会計年度の保育士について、131人の雇用を見込んでいたが、実際の雇用は92人に止まったことによるもの。

●評価委員からの主な意見

保育士確保については、待機児童解消に向けて引き続き取り組まれない。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	2	事業名	公立保育所・公立幼稚園の施設維持管理	担当課	教育・こども部 こども未来室幼保運営担当、学校園管理室教育施設担当
--------	---	-----	--------------------	-----	--------------------------------------

予算額	109	百万円	決算額	93	百万円
-----	-----	-----	-----	----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
需要と供給バランスのとれた公立園及び民間園の提供	公立園の適正配置	需要と供給の状況や公立園の老朽化などを踏まえたファシリティマネジメントに取り組めます	①公立保育所・公立幼稚園のあり方に基づく整備方針に沿って、計画的に整備

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
健全な育成を支援するための公立園の環境充実	安全で過ごしやすい施設環境の提供	園児がいきいきと過ごすことができる環境づくりや、老朽化する施設、備品等の計画的な更新に取り組めます	②各保育所、各幼稚園から購入希望を聴取し、現場の意見・要望を反映した物品を計画的に調達

●令和3年度の課題

・和泉保育園と国府幼稚園の移転統合・認定こども園化について、保育士等の意見も参考に、施設整備基本計画を作成する必要がある。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

需要と供給バランスのとれた公立園及び民間園の提供	①令和8年度の芦部保育園民営化に向け、運営事業者の募集要領案を作成した。また、令和9年度の教育センター跡地での公立認定こども園の開設に向けて、基本的な考え方を整理した。
健全な育成を支援するための公立園の環境充実	②保育士等の意見・要望を反映した物品の調達ができた。

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①消防本部の移転や教育センター等の除却の進捗状況について関係部署と情報共有し、公立認定こども園の整備スケジュールを確認していく。

●評価委員からの主な意見

施設の老朽化については、しっかりと点検を行ったうえで必要な対応をし、安全確保に努められたい。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	3	事業名	民間園への支援と連携	担当課	教育・こども部 こども未来室幼保運営担当・幼保育成担当
--------	---	-----	------------	-----	--------------------------------

予算額	5,940	百万円	決算額	5,540	百万円
-----	-------	-----	-----	-------	-----

※予算額と決算額の差が500万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
需要と供給バランスのとれた公立園及び民間園の提供	待機児童の解消	公立園と民間園が連携し、待機児童の解消に取り組みます	①育休復帰・就労予定の保育士の子どもへの優先入所 ②保育士就職支援補助金制度を実施(民間認定こども園等に保育士として1年以上、常勤で勤務することが条件) ③中部地域にある「みなまつ保育園」の分園整備を支援し、受入人数を増員

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
民間園への支援・連携の充実	民間園運営等に対する補助及び各種情報の共有化	民間園が実施する幼児教育・保育等について、施設型給付・補助金等の運営支援を行うと共に、就学前教育を取り巻く各種情報の共有に取り組みます	④施設型給付や各種補助金交付 ⑤市主催等の研修を民間園へも周知し保育・教育の質を高める機会を共有

●令和3年度の課題

- ・民間園と連携し、就学前児童数の推移、保育ニーズ等を把握し、待機児童の解消を図る取組みを行う必要がある。
- ・芦部保育園の民営化に伴い、医療的ケア児も含めたインクルーシブ保育を継続的に実施可能な民間認定こども園を誘致するため、募集条件を整理する。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

<p>需要と供給バランスのとれた公立園及び民間園の提供</p>	<p>①待機児童の解消を図るため、本市の保育所等で就労する保育士等の子ども28人の優先入所を行った。 ②新たに勤務した40人の保育士が在籍する民間園に対して就職支援補助金1,000万円の補助を行った。 ③みなまつ保育園において、分園が完成し、令和5年4月から15人の園児を受入開始予定。</p>
<p>民間園への支援・連携の充実</p>	<p>④安定した民間園の運営を図ることを目的に、施設型給付費等の給付(市内27施設41億2,565万5,000円)や補助金の交付(市内26施設6億2,751万3,000円)を行った。 ⑤市内保育所等に就職する保育士等の確保を促進し、待機児童の解消及び保育の更なる質の向上に資することを目的に、市主催の研修を13件案内し99人の参加があった。</p>

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

③市中部地域で16人の待機児童が発生している。みなまつ保育園分園による効果を確認するとともに、令和4年度の待機児童及び保留児童について追跡調査を行うことにより、保育ニーズの必要性を見極め、対策の検討を行う。

※予算額と決算額の差異(400百万円)の要因

民間保育施設に対する施設型給付及び施設等利用費におけるもの。要因として、保育士不足等が原因で見込んでいた利用児童数に達していなかったことが大きいと考える。

●評価委員からの主な意見

子育て支援において、待機児童の問題は特に大きい。ニーズの把握や中長期的な予測をもとに、引き続き、待機児童の解消に努められたい。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	4	事業名	学力向上	担当課	教育・こども部 学校教育室教育センター、教育指導担当
--------	---	-----	------	-----	-------------------------------

予算額	269	百万円	決算額	248	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
自らの未来を切り拓く「確かな学力」の育成	豊かな知識や技能を身に付けた児童生徒を育む	基礎学力の確かな定着を図るとともに、社会の変化に対応した教育に取り組みます	①関係部局との合同研修による幼児教育と小学校教育を一貫する研究 ②保幼小連携のさらなる推進とスタートカリキュラムの幅をさらに広げた架け橋プログラムの研究 ③槇尾中学校区でのコミュニティ・スクールのモデル実施や義務教育学校でのコミュニティ・スクールにより、「地域とともにある学校づくり」を推進
	主体的に判断・行動し、問題解決に導くことができる資質と能力を備えた児童生徒を育む	「思考力・判断力・表現力」を身につけることができる教育に取り組みます	④各学校の取組み好事例を全校に普及 ⑤「主体的・対話的で深い(STF)和泉の学び育成プラン」を活用し、授業改善の取組みをさらに充実 ⑥プログラミング的思考の育成について、年間指導計画を改善
	児童生徒一人ひとりの学ぶ意欲と個性をひきだす	「わかる授業づくり」を推進します	⑦「主体的・対話的で深い(STF)和泉の学びプロジェクト」による授業改善の進め方検討、加えて各学校で行われている授業についての校内研修等の好事例を他校にも広げるポータルサイトの充実 ⑧中学1年生を対象にリーディングスキルテスト(RST)を実施し、結果分析に基づいた授業改善 ⑨デジタル採点分析システムを導入し、学習状況をデータ分析することで、授業改善

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
情報化・国際化社会で活躍する人材の育成	社会の情報化に対応した資質・能力を育む	デジタル機器を積極的に活用した教育に取り組みます	⑩1人1台学習用端末を活用した授業づくり並びに個別最適で協働的な学びの推進 ⑪学習eポータルの導入

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和3年度の課題

- ・小学校・義務教育学校と私立保育園・幼稚園・こども園との連携を強化する必要がある。
- ・新型コロナウイルスの感染が広がるなかで、実施できなかった研修や会議等について、書面開催やオンラインでの研修や会議の形を検討し、実施していく必要がある。
- ・各校で順次、学校運営協議会を導入することを視野に、「南松尾はつが野学園」におけるPTAの組織改編など、コミュニティ・スクールの取組みを検証のうえ発信していくために、市教委と学校運営協議会がさらに連携していく必要がある。
- ・全学校、全教室訪問による授業改善及び様々な手法や手立てを活用し、各学校の課題に正対した学力向上の取組みを行う必要がある。
- ・学習指導要領に基づいた授業づくりを行う中で、ICT機器が必要な場面で、目的に応じて活用する必要がある。

●令和4年度の事業評価

<p>自らの未来を切り拓く「確かな学力」の育成</p>	<p>①②保育園・幼稚園・こども園の見学・交流やスタカリプロジェクト会議など私立公立の垣根を越えた連携により、交流のみにとどまらない子どもの姿の共有・スタートカリキュラムの見直しができた。</p> <p>③榎尾中学校区での学校運営協議会研究推進委員会を年2回実施し、今後教育活動の中で学校運営協議会が要となる地域と連携した活動をどう展開するのか検討した。南松尾はつが野学園では年3回の学校運営協議会を実施し、教科横断的な学習(理科、家庭科、総合的な学習の時間)となる防災教育を実施した。南松尾はつが野学園の施設見学、教職員との意見交換を榎尾中学校区の教職員が行い、(仮称)榎尾学園の開校に向けて小中一貫教育の研究を行った。</p> <p>④学力向上担当者会を年4回実施し、各学校の取組み共有を行うとともに、代表校2校による全校公開を行い、全校の授業改善の中心者が参加した。学校公開まで行うことにより、市が発信する授業改善の視点の理解が深まり、様々な学校の取組みの一助となった。</p> <p>⑤「主体的・対話的で深い(STF)和泉の学び育成プラン」を活用し、年間90回の全クラス学校訪問を行い、管理職へ指導助言を行ったことにより、授業改善の取組みが進んだ。</p> <p>⑥プログラミング教育年間指導計画を、1人1台学習用端末の活用を踏まえたものと見直し・改善を実施した。</p> <p>⑦「主体的・対話的で深い(STF)和泉の学びプロジェクト」の会議において、各学校のカリキュラム・マネジメントにつながるよう「未来を創造する資質・能力を育むための手立て一覧表」を作成した。また、ポータルサイト「IZUMI e シェアリング」において、指導案や取組み事例などの掲載数が拡大された。</p> <p>⑧中学1年生及び中学校教員を対象にリーディングスキルテスト(RST)及びRST活用研修を実施し、市内中学校1年生の基礎的読解力の実態把握を行いRSTの視点を生かした授業改善(曖昧な指示や発問を避け、意図や目的を明確に伝える、同義となるように文を言い換えさせるなど)を行った。</p> <p>⑨市内すべての中学校及び義務教育学校にデジタル採点・分析システムを導入し、教員の負担軽減を図るとともに、分析システムや弱点補強問題により、個に応じた指導ができた。</p>
<p>情報化・国際化社会で活躍する人材の育成</p>	<p>⑩1人1台学習用端末を活用した授業づくりのために学識者を講師とした研修を実施するとともに、AIドリルを活用したコンテスト等を実施し、個別最適な学びを推進した。</p> <p>⑪全国学力・学習状況調査での活用を見据え、学習eポータルを導入した。</p>

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

④⑤⑦授業改善の取組みに課題が大きい学校に対し、全国学力・学習状況調査結果が向上するなどの成果が表れている取組みや好事例を共有し、改善をめざす。加えて全校年3回の訪問指導及び助言を行う。
⑩1人1台学習用端末を目的達成に向けて積極的に使用しているが、そのねらいと活用方法があってない場合がある。児童生徒の資質・能力の育成に資するよう効果的な活用方法についての研修を実施する。

●評価委員からの主な意見

ICT活用をテーマとした教員への研修を積極的に行っていることは評価できる。ICTが進むことで、家庭でのサポート体制の格差や教員の負担などが生じていないかしっかりと確認をし、必要なフォローを行うことが求められる。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	5	事業名	英語教育・読書教育	担当課	教育・こども部学校教育室人権教育担当
--------	---	-----	-----------	-----	--------------------

予算額	139	百万円	決算額	139	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
情報化・国際化社会で活躍する人材の育成	国際社会に貢献する人材を育む	世界の人々と協働するため、国際社会への理解や英語力とコミュニケーション能力を高める教育に取り組みます	①実用英語技能検定の受検料を補助することにより、主体的に英語活用に取り組む姿勢や英語運用能力の向上 ②教員の授業力、指導と評価の一体化に向けた研修等の充実 ③ALTを配置し、英語活用の実際の場面やコミュニケーションを主眼とした授業の実施

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
自らの未来を切り拓く「確かな学力」の育成	主体的に判断・行動し、問題解決に導くことができる資質と能力を備えた児童生徒を育む	知的活動の基盤となる国語能力を向上させる読書活動に積極的に取り組みます	④小中学校における学校図書館全体計画の策定並びに計画に基づいた取組みの推進 ⑤調べ学習における学校図書館の積極的活用や小中交流による魅力ある学校図書館づくりの推進 ⑥司書教諭や学校図書館司書の資質向上や、各学校の取組みなどの情報共有を目的とした連絡会議や研修会の開催

●令和3年度の課題

・小学校、中学校ともに「英語による実際のコミュニケーションを意識した授業づくり」に向けた研修の充実を図る。
・全国学力・学習状況調査における、項目別の正答率の分析から「書くこと」「読むこと」等に課題が見られるので、児童生徒の読解力や情報活用能力の育成のため、引き続き、学校図書館や1人1台学習用端末を活用した複数の資料を活用する授業づくりを推進する。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

<p>情報化・国際化社会で活躍する人材の育成</p>	<p>①英検準2級以上を受検する割合の上昇(R3:47.9%→R4:50.2%)が続いており、英語活用力のより高いレベルに向けた生徒の意欲の向上が見られた。 ②モデル授業の動画をYouTubeにて限定配信した研修では、受講後アンケートの「②研修の内容は参考になりましたか。」「④内容は理解できるものでしたか。」の質問について強い肯定の割合が、それぞれ②R3:78.8%→R4:88.7%、④R3:86.5%→R4:92.5%と増加し、授業力向上を図ることができた。 ③中学校英語科教員が授業中の英語による発話が75%以上の割合がR3:14.5%からR4:33.3%に上昇しており、ALT19人を活用するなど授業を英語によるコミュニケーションの場とする意識や実践の向上が見られた。</p>
<p>自らの未来を切り拓く「確かな学力」の育成</p>	<p>④全小中学校が学校図書館全体計画を策定し、計画に基づき取組みを推進した。 ⑤芦部小学校が、府の「学校図書館を充実・活用するためのモデル校」として、学校図書館を活用したカリキュラム・マネジメントに取り組み、目的や状況に合わせて情報を選び、お互いの考えを伝え合う子の育成をめざして教育活動を展開し、全校へ実践報告を行った。 ⑥司書教諭連絡協議会を年間2回、学校図書館司書連絡協議会を年間3回実施し、各校における取組みの情報共有を行うとともに、学校図書館を活用した授業づくりについて、好事例を発信することで、市全体の国語能力の向上に向けた共通認識をもつことができた。</p>

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

②英検3級相当(CEFR:A1相当)以上の中学3年生の割合を50%以上とする目標を掲げているが、直近5年間は45%前後で推移している。教員の授業力向上を軸にALTを活かした授業づくりができるよう、研修の充実を図る。
 ⑤小学校、中学校ともに、令和4年の全国学力・学習状況調査の結果分析から「多くの情報の中から必要なものを取捨選択し、順序だてて表現する力」に課題があることから、学校図書館を活用した授業の好事例の共有を図るため、研修を充実させるとともにポータルサイトの活用を促進する。

●評価委員からの主な意見

英検3級相当以上の実力を有する生徒の割合が増加していることは評価できる。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	6	事業名	教職員の資質向上	担当課	教育・こども部学校教育室教育センター、教職員担当
--------	---	-----	----------	-----	--------------------------

予算額	30	百万円	決算額	25	百万円
-----	----	-----	-----	----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
自らの未来を切り拓く「確かな学力」の育成	児童生徒一人ひとりの学び意欲と個性をひきだす	教職員の資質と能力の向上を図ります	①「主体的・対話的で深い(STF)和泉の学び」を推進するため全校訪問し授業改善の取組普及 ②これからの子どもたちが身につけるべき「資質・能力」の育成をめざし、自ら学ぼうとする教員を育成するための重点研修実施や和泉市夏季・冬季一括募集研修の充実 ③スクールサポートスタッフ配置校を8校から10校に拡充

●令和3年度の課題

・子どもたちが身につけるべき「資質・能力」の育成に向けて、教員が学習指導要領に基づいた授業づくりについて具体的なイメージを持ち授業改善を進めていけるよう公開校内研修、ポータルサイト、市主催の研修の充実が必要である。

・教員の時間外勤務時間の軽減等、働き方改革については、引き続き各教員の意識改革及び各学校において行事の精選等を進める必要がある。加えて、スクールサポートスタッフの人材確保が課題である。また、アンケート調査において、業務量が多いため時間外勤務が軽減されにくいといった否定的な回答も一定あるということについても、市として課題意識を持ち今後も学校管理職等と連携しながら教員の働き方改革、職場環境の整備に取り組んでいく。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

自らの未来を切り拓く「確かな学力」の育成	①STFプロジェクトチームが、全校全教室訪問を延べ90回行い、訪問時に発見した好事例を「IZUMI e シェアリング」に掲載することで、授業改善の取組みを普及することができた。 ②和泉市夏季・冬季一括募集研修を7講座実施するとともに、過去の研修動画6本の配信も行った。また、学び続けている教員、特に経験年数が3～9年目の教員を中心に、自ら学ぼうとする教員を育成するための研修を5回実施した。 ③スクールサポートスタッフ配置校において、10校中6校が令和3年度と比較し、1月あたりの時間外勤務時間を減らすことができた。
----------------------	--

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①子どもたちに「未来を創り出す資質・能力」の育成を図るために、教員が学習指導要領に基づいた授業づくりや授業改善を進めていけるよう公開校内研修の充実、市主催の研修「IZUMI e シェアリング研究会」の参加者の増加を図る。 ③教員の働き方改革については、ここ数年で各教員の意識も大きく変化し、行事の精選等も図られているが、依然として業務過多となっている教員が一定数いるため、各校における校務分掌の平準化及びさらなる行事等の精選を行うことで効率化を図る。また、スクールサポートスタッフの人材確保についても大きな課題であることから、ホームページや広報いずみを活用するなど人材確保に努める。
--

●評価委員からの主な意見

休職している教職員の状況、原因や人数の推移などをしっかりと把握していることは評価できる。 講師の欠員が出ていることは非常に厳しい状況だといえる。教員の資質向上を職場環境の改善というところまで広げて見て、引き続き人材確保に努められたい。
--

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	7	事業名	生徒指導・教育相談体制の充実	担当課	教育・こども部 学校教育室教育指導担当、教育センター
--------	---	-----	----------------	-----	-------------------------------

予算額	36	百万円	決算額	34	百万円
-----	----	-----	-----	----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
「豊かな心」の育成	だれもが安心して過ごせる学校づくりの推進	いじめ、暴力行為、不登校などの未然防止や早期発見、早期対応に向けて必要な措置を講じるとともに、児童生徒が抱える課題の多様化に対応できる体制の構築に取り組みます	①スクールカウンセラーの配置時間数を拡充 ②スクールソーシャルワーカー配置時間数を拡充 ③発達検査及び行動改善支援の時間数を拡充

●令和3年度の課題

・いじめ等の生徒指導、コロナ禍における生活習慣の乱れを起因とした不登校児童生徒の増加、虐待やヤングケアラー等の家庭環境に関わる課題など児童生徒を取り巻く問題について複雑かつ対応が困難なケースが増加している。関係機関との連携や福祉や心理、法律等の専門家の活用、チーム体制の更なる充実喫緊の課題である。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

「豊かな心」の育成	①②スクールソーシャルワーカーの配置時間数(R3:2,000時間→R4:2,400時間)及び、スクールカウンセラーの配置時間数(R3:1,470時間→R4:1,582時間)を拡充するとともに、専門家を活用した組織的なチーム対応の体制づくりが進み、問題行動等の未然防止、初期対応が充実した。 ③和泉市適応指導教室(グリーンルーム)を運営し、26人の利用児童生徒の学校復帰に向けた取組みを進めた。指導員として校長等OB5人を活用し、児童生徒の個に応じた支援に努めた。また、臨床心理士により、児童生徒の発達検査を行い、検査後、保護者と関係教員に対して行動改善支援を行うことで、個に応じた支援策を共有することができた(175件実施、38時間増(R3:688時間→R4:726時間))。
-----------	---

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①②③いじめ等の生徒指導、新規不登校児童生徒の増加、虐待やヤングケアラー等の家庭環境に係る課題、様々な問題行動など、児童生徒を取り巻く問題については、多様化、複雑化し、対応が困難となるケースが増加している。多職種の専門家が連携、協働する機会を意図的に設定し、必要な資源を活用しながら、チームとして組織的対応を行うことにより、各ケースにおける重篤化を防ぐ。

●評価委員からの主な意見

問題行動等の未然防止、初期対応が充実したことは評価できる。引き続き、スクールソーシャルワーカーや関係機関などと連携しながら、少しでも多くの児童生徒と一緒に学べる環境づくりに取り組まれない。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	8	事業名	道徳教育	担当課	教育・こども部学校教育室人権教育担当
--------	---	-----	------	-----	--------------------

予算額	1	百万円	決算額	1	百万円
-----	---	-----	-----	---	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
「豊かな心」の育成	人間性豊かな児童生徒を育む	道徳的価値を深めることができる環境づくり、授業づくりに取り組みます	①全校において「和泉市豊かな心をはぐくむ授業公開」を実施 ②「特別の教科 道徳」について、道徳教育推進教師の研修を実施 ③授業公開の手法については、ICTの活用を含め、参加しやすい方法を検討

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
情報化・国際化社会で活躍する人材の育成	郷土和泉を誇りに思い愛する心を育む	郷土の伝統と文化を正しく理解し、深めるための教育に取り組みます	④伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度を育成し、郷土への誇り、地域における伝統などについて理解を深める「特別の教科 道徳」の授業を実施

●令和3年度の課題

- ・新型コロナウイルス感染拡大状況においても「各校の地域に向けた授業公開」を開催できるようICTを活用した取組みを検討し続ける。
- ・郷土への誇り、地域における伝統などについて理解を深めるための郷土史読本を、生涯学習部と連携して作成する。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

「豊かな心」の育成	<p>①全校において「和泉市豊かな心をはぐくむ授業公開」を開催し、全学級で道徳科の公開授業を実施したことで、教員の家庭や地域と連携して道徳教育を進める意識が高まった。</p> <p>②全校の道徳教育推進教師対象の連絡協議会を年2回実施し、道徳科の授業における「考え、議論する道徳」について研修を実施した結果、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙における「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の肯定的回答が、小学校では4.3ポイント(R3:82.3%→R4:86.6%)、中学校では3.6ポイント(R3:75.5%→R4:79.1%)上昇した。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症対策のため、公開対象を限定した学校についても、ホームページ等で公開授業の様子を発信した。</p>
情報化・国際化社会で活躍する人材の育成	<p>④郷土への誇り、地域における伝統などについて理解を深めるための郷土史読本を、生涯学習推進室と連携して作成し、全校の小学5・6年生・中学1年生を対象に配付した。</p>

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

③「和泉市輝く子どもを育む教育のまち条例」が策定されたことに加え、コロナ禍等に伴い子どもたちを取り巻く状況が大きく変化していることから、「和泉市心豊かな子ども育成連絡会」のあり方を見直し、社会総がかりで子どもを育ていく方策を検討する。

●評価委員からの主な意見

「考え、議論する道徳」については、他教科においても、子どもたちが主体的に授業を進めることにもつながると思われるので、取組みを進められたい。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	9	事業名	人権を尊重した教育	担当課	教育・こども部学校教育室人権教育担当
--------	---	-----	-----------	-----	--------------------

予算額	262	百万円	決算額	262	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
「豊かな心」の育成	人間性豊かな児童生徒を育む	豊かな人権感覚をもって行動し、一人ひとりの価値観や性別・国籍・障がいなどの「多様性」を認め合うとともに、人を思いやり、一人ひとりの感性を大切に育てる児童生徒を育みます	①人権教育、支援教育に係る教職員への研修実施 ②性の多様性への理解を深める取組みの実施 ③支援学級介助員、通常学級で支援を要する児童生徒への支援を行う支援員、学校看護師、語学指導員の配置

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
情報化・国際化社会で活躍する人材の育成	国際社会に貢献する人材を育む	世界の人々と協働するため、国際社会への理解や英語力とコミュニケーション能力を高める教育に取り組みます	④日本語指導が必要な児童生徒や外国人児童生徒に対する理解を広げ、深めるための多文化共生教育及び研修の実施

●令和3年度の課題

・医療的ケアの必要な児童生徒の増加に対応して、学校看護師の人材確保を進めていく必要がある。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

「豊かな心」の育成	<p>①人権教育実践交流会(年間5回)を実施し、経験年数の少ない教員の実践力の向上を図るとともに、コグトレ研修(年間6回)、支援教育コーディネーター研修(年間4回)、和泉市支援教育研修(年間3回)、通級指導担当者会(年間11回)を通じ、支援を要する児童生徒への適切な支援及び対応について教員の資質向上を図った。</p> <p>②宝塚大学教授日高庸晴氏を講師に招き、全校の管理職及び担当教員を対象に「LGBTQの児童生徒の存在を認識した学校での取り組み」についての研修を実施した(事後アンケート「学校の取り組み推進の参考になった」肯定的回答98%)。</p> <p>③支援学級介助員63人(R3:64人)、通常学級で支援を要する児童生徒への支援員8人(R3:8人)、学校看護師14人(R3:11人)、語学指導員13人(R3:14人)を配置し、個別に支援、配慮を必要とする児童生徒に向け適切な支援を行った。</p>
情報化・国際化社会で活躍する人材の育成	<p>④日本語指導担当者連絡会(年1回)を実施し、日本語指導が必要な児童生徒への適切な指導及び理解の充実を図ることができた。また、全校の人権教育担当者を対象に、多文化共生教育の推進に向け、在日外国人教育研修(年1回)を実施した。</p>

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①令和5年度に通級指導教室が大幅に増加することで、新たに担当する教員のスキルアップが急務であることから、担当教員への研修を充実させる。

●評価委員からの主な意見

LGBTQの児童生徒や外国人児童生徒への対応、学校としての取り組みは非常に難しい問題である。教員だけでなく、子ども達の理解を深め、学校として悩みを相談できる雰囲気を作り出すよう取り組まれない。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	10	事業名	我が町における子どもの育成	担当課	教育・こども部学校教育室教育指導担当
--------	----	-----	---------------	-----	--------------------

予算額	5	百万円	決算額	5	百万円
-----	---	-----	-----	---	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
「豊かな心」の育成	規範意識と豊かな情操を培う	「いずみあいさつ運動」をはじめ、地域で子どもたちを温かく見守る人々との交流を促進します	①毎月11日の「いずみあいさつ運動」時に、校区のパトロールを実施、各校児童会や生徒会を中心に「あいさつ運動」実施の充実 ②地域人材ボランティアを活用した、登下校時における児童生徒の見守り活動実施 ③「ふるさと元気寄附金」の活用による、のぼり旗等の作成、見守り活動推進

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
家庭・地域と連携した健全な子どもの育成	自ら進んで家庭で学習する児童生徒を育む	家庭・地域と連携し、基本的な生活習慣や社会的マナーを身につける教育に取り組めます	④学校支援地域本部事業での学校支援活動及び我が町の子どもを育てよう事業での地域に根ざしたイベント、講演会、子育て教室、清掃活動などの実施
	地域とともに歩む学校づくりの推進	社会総がかりで子どもを育む環境を整えます	⑤中学校区の取組発信と学校運営協議会の設置も視野においた各種団体との連携の推進 ⑥「和泉市輝く子どもを育む教育のまち条例」に基づいた取組みの推進

●令和3年度の課題

- ・子どもの豊かな心を育成するために、あいさつ運動の継続実施に加え、地域の方をゲストティーチャーとして招聘する取組みなど、子どもたちが地域の人々と交流する多様な取組みを充実させていく必要がある。
- ・家庭・地域と連携し、健全な子どもを育成するため、地域教育協議会や学校支援地域本部等が核になり、課題解消に向けて取組みを推進することができるようさらなる支援が必要である。令和4年度は、槇尾中学校区において学校運営協議会研究推進委員会を2回実施する。学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)の取組みの情報発信に努め、全校での学校運営協議会の設置も視野に各種団体との連携を更に深めていく必要がある。
- ・ボランティア意欲の高い方など、地域人材の発掘に向けた方策を検討する必要がある。
- ・新型コロナウイルスの感染が広がる中で、実施できなかった取組みがある。書面開催やオンラインでの研修や会議の形を検討し、実施していく必要がある。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

「豊かな心」の育成	<p>①毎月11日の「いずみあいさつ運動」にあわせ、青色パトロールカーで巡回し、その啓発や周知を行った。</p> <p>②すべての学校で児童会生徒会、見守り隊等によるあいさつ運動を実施した。</p> <p>③あいさつ運動の啓発用のぼり旗を作成し、各学校へ5枚ずつ配付した。</p>
家庭・地域と連携した健全な子どもの育成	<p>④新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止・規模縮小していた地域教育協議会主催の各種イベントや、学校支援地域本部の活動を可能な範囲で工夫し取り組み、子どもたちと地域のつながりを深めることができた。</p> <p>⑤南松尾はつが野学園での学校運営協議会を年3回実施するとともに、槇尾中学校区での学校運営協議会研究推進委員会を2回実施し、(仮称)富秋学園開校準備委員会で発信するなど、市内での学校運営協議会制度の充実・定着を図ることができた。</p> <p>⑥あいさつ運動の啓発用のぼり旗に「和泉市輝く子どもを育む教育のまち条例」の制定を記載することで条例の周知を図ることができた。</p>

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

④⑤⑥新型コロナウイルスの影響で中止・規模縮小した取り組みやボランティアに参加する人数の減少が回復できていないことから、各中学校区での地域教育協議会での特色ある取り組みや学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)・学校運営協議会研究推進委員会を生かした取り組み等の情報発信を行い、学校や地域の実態に合わせて教育活動や地域のイベント等への参画について他の事例を参考に様々な工夫を取り入れられるようにする。

●評価委員からの主な意見

日本人は全体的に自己肯定感が低い傾向がある中、子ども達の自己肯定感、自己有用感を高める取り組みが求められる。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	11	事業名	健康教育・体力向上	担当課	教育・こども部学校教育室教育指導担当
--------	----	-----	-----------	-----	--------------------

予算額	1	百万円	決算額	1	百万円
-----	---	-----	-----	---	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
たくましく生きるための「健康・体力」の増進	成長の基礎となる健康・体力を増進する	運動習慣の定着に向けた取組みを推進します	①始業前や休み時間などの短時間を活用した効果的な運動を実践するための備品・消耗品の購入 ②担当教員研修会を通じて、指導方法の工夫改善により、各校の運動習慣・体力づくりの取組みを推進 ③民間施設を活用した水泳授業のモデル実施
		心身両面の健全な発達を育む取組みを推進します	④各校において、和泉市薬剤師会等による「薬物乱用防止教室」を実施 ⑤青少年薬物汚染防止対策推進会議の開催 ⑥がん教育の出前授業の実施

●令和3年度の課題

- ・学校水泳授業屋内プール活用モデル事業の拡大に伴い、より安全・快適・専門的で、かつ、子どもたちが主体的に学ぶことのできる「新しい和泉の水泳」について検討し、移行期間中の学校水泳授業や、小学校の夏季水泳指導、中学校の部活動のあり方も踏まえ、今後の方向性等を策定していく。
- ・アフターコロナを見据えて、体力向上の取組みについても検討していく。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

たくましく生きるための「健康・体力」の増進	<p>①短時間を利用した効果的な運動等の推進を目的に、希望する14校に備品や消耗品を配付した。加えて、大阪体育大学准教授小林博隆氏を講師に招き、教員を対象に「小学校体育実技講習会」を11月に実施した。</p> <p>③民間屋内プールを活用した水泳授業のモデル事業を拡充し、中学校1校、小学校4校を対象に3事業者4施設において実施した。新たに統一した進級カードを作成した。</p> <p>④全校で薬剤師や警察官などの専門家を活用した薬物乱用防止教室を実施した。</p> <p>⑤3月1日に関係機関や関係団体の代表者が集まり実施した。</p> <p>⑥医師や看護師などの専門家によるがん教育出前授業を3校で実施した。</p>
-----------------------	--

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①②「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果からも、長期間にわたるコロナ禍の影響は大きく、児童生徒の体力の課題は深刻であることがわかった。体力向上については、継続的な取組みが必要であり、運動意欲を伸ばしたり、運動機会を確保してだけでなく、研修や担当者会の中で様々な好事例を市全体で積極的に共有し、子どもたちの体力向上につなげていく。

③学校水泳民間屋内プール活用事業は、施設や利用校を拡充予定であり、今後事業者間の調整や学校間との日程調整がより難しくなることが予想される。指導方法の共通化や円滑な運営ができるよう、事業者説明会や担当者説明会などを実施し、スムーズに運営ができるようにする。

●評価委員からの主な意見

体力向上については、体育の授業だけでなく、部活動や学校外の活動による部分も大きい。学校外の活動なども上手く分担しながら子どもの体力向上に取り組まれない。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	12	事業名	食育及び学校給食	担当課	教育・こども部学校園管理室保健給食担当
--------	----	-----	----------	-----	---------------------

予算額	404	百万円	決算額	388	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
たくましく生きるための「健康・体力」の増進	心身の健康を増進する	自校調理による安全で栄養バランスの良い学校給食を提供し、家庭・地域と連携した食育を推進するとともに、食への理解を深めます	①国府小学校調理業務委託の導入 ②調理員を対象とした衛生管理研修の実施 ③家庭における食育の啓発

●令和3年度の課題

・給食調理業務委託の国府小学校への新規導入について検討する。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

たくましく生きるための「健康・体力」の増進	①国府小学校給食調理業務委託の導入に際し、学校や委託事業者と協議・調整を図ることで、円滑に準備を進めることができた。 ②委託事業者も含めた調理員に対し、作業風景のビデオ撮影を用いた衛生管理指導を行い、事故防止に向けてより具体的な指導ができた。 ③給食だよりやホームページでの献立メニューの紹介及び広報いずみを通じた献立レシピの紹介を市民に対して行い、望ましい食習慣やバランスのよい献立について情報提供ができた。
-----------------------	---

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①②自校調理による安心・安全でおいしい給食の提供の維持・継続のため、調理員に対し、衛生管理やアレルギー事故防止のための研修を実施するとともに、給食調理委託新規校については、学校や委託事業者と必要な協議調整を図り円滑な導入準備を進める。

●評価委員からの主な意見

- ・給食調理業務の委託事業者と協議・調整や事故防止に向けてより具体的な指導などの取組みについて、評価できる。
- ・広報いずみに給食の献立メニューを紹介することは、児童生徒や保護者のみならず、市民全体への啓発にもつながるので、引き続き取組みを進められたい。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	13	事業名	学校保健の充実	担当課	教育・こども部学校園管理室保健給食担当
--------	----	-----	---------	-----	---------------------

予算額	172	百万円	決算額	120	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
たくましく生きるための「健康・体力」の増進	心身の健康を増進する	各種健康診断や学校内事故に対する対応体制の確保など授業を受けるための環境支援に取り組みます	①教職員の食物アレルギー対応に係る知識の習得及び学校給食食物アレルギー対応検討委員会の開催 ②肥満検診未受診者の状況把握のため対象者へのアンケート調査を実施 ③学校園において、任意のPCR検査を実施することによる感染拡大防止、感染不安の解消

●令和3年度の課題

・各種健診の有所見者の受診率向上に向けて、所見内容や未受診者の状況把握を行い、効果的な手法を検討する。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

たくましく生きるための「健康・体力」の増進	①新型コロナウイルス感染症の影響により開催できていなかった食物アレルギー研修会を3年ぶりに集合型で実施し、教職員約80人の参加があった。エピペンの試し打ち等実践を踏まえた研修で教職員の食物アレルギー対応に係る知識の習得につながった。 ②肥満検診の受診対象児童の保護者に対し、アンケートを実施し、受診を希望しない理由を把握することができた。 ③新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業等が発生した際に任意のPCR検査を実施し、小学校延べ82人、中学校延べ74人が受検した。
-----------------------	--

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

②肥満検診等、各種健診の有所見者の受診率向上に向けて、所見内容や把握した未受診者の状況を基に、効果的な受診勧奨を行う。

※予算額と決算額の差異（52百万円）の要因

新型コロナウイルス感染症による臨時休業等の発生が少なかったことにより、任意のPCR検査の実施件数が少なかったことによるもの。

●評価委員からの主な意見

各種検診の有所見者の未受診者について、実態把握や養護教員間の情報共有などを行い、受診率向上に取り組まれない。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	14	事業名	教材の充実・管理経費の適正化	担当課	教育・こども部学校園管理室教育施設担当
--------	----	-----	----------------	-----	---------------------

予算額	672	百万円	決算額	614	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
教育環境の充実	学びの意欲を向上させる学習環境の提供	児童生徒が授業を受けやすい学習環境・教職員が授業を行いやすい環境づくりに取り組みます	①小学校全学年が段階的に35人学級制度へ移行することに伴う計画的な物品調達 ②学校図書蔵書率向上を目的とした図書室書架を購入

●令和3年度の課題

- ・令和3年度から小学校全学年が段階的に35人学級へ移行するため、計画的に物品調達を行う必要がある。
- ・今後も老朽化する大型備品を更新するため、継続的に予算を確保する必要がある。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

教育環境の充実	①35人学級制度への移行に対応すべく、教室不足の対応のため黒鳥小学校や南松尾はつが野学園への必要物品を調達することができた。 ②蔵書率向上のために、小学校4校及び中学校3校に書架の配置を行った。
---------	--

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

②学校図書館の蔵書率を向上させるため、図書の配架を行うための書架を購入する。

※予算額と決算額の差異（58百万円）の要因

世界情勢により高騰する光熱費に対し、補正予算を計上したが、国が電気事業者やガス事業者へ助成を行ったことで、当初の想定より使用単価の上昇が抑えられたことによるもの。

●評価委員からの主な意見

計画的な物品調達の取り組み状況などについて、評価できる。
子どもたちの学習活動に支障を来すことが無いよう、計画的に物品整備に努められたい。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	15	事業名	小中学校の施設維持管理	担当課	教育・こども部 教育総務課・学校園管理室教育施設担当
--------	----	-----	-------------	-----	-------------------------------

予算額	1,845	百万円	決算額	931	百万円
-----	-------	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
教育環境の充実	安全・安心で快適な学校環境の提供	学校生活が快適に過ごせるような環境整備や少子化傾向・施設の老朽化を勘案したファシリティマネジメントに取り組みます	①(仮称)槇尾学園について、実施設計の策定及び新体育館の建設に着手。また、(仮称)富秋学園について、設計施工を一括して実施するデザインビルド事業者選定に向けた公募資料の作成 ②災害時避難所である小学校体育館について、特別教室も含めて、空調整備時期を検討 ③はつが野地区の開発による人口増に伴う対応として、令和6年度に教室不足となる南松尾はつが野学園の校舎増築に向けた設計に着手

●令和3年度の課題

- ・(仮称)槇尾学園の整備について、令和7年度の開校に向け、事業者や関係課と十分な調整・工程管理等を行う必要がある。
- ・(仮称)富秋学園の整備について、令和9年度の開校に向け、デザインビルド事業者の選定、校舎等の整備工事に取り組む必要がある。
- ・中学校及び義務教育学校だけでなく、小学校体育館への空調設備の導入について取組みを進める必要がある。
- ・空調設備に関して、小・中学校の未設置の施設(家庭科室、理科室、美術室、技術室などの特別教室)や給食室への設置、老朽化した既存空調設備の更新に向け取組みを進める必要がある。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

教育環境の充実	①(仮称)榎尾学園については、計画通り事業を進捗させることができ、(仮称)富秋学園については、デザインビルド事業者選定に係る要求水準書等の公募資料が完成し、発注に向けた準備が整った。 ②小学校体育館や特別教室、給食室の空調設備への新設・更新に関して令和6・7年度に整備するための実施設計業務に着手することができた。 ③南松尾はつが野学園増築工事の実施設計が完了し、工事の補正予算成立や事業者の選定を行うことができた。
---------	--

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

- ①(仮称)榎尾学園において、順次竣工を予定している体育館、校舎を榎尾中学在校生が利用するため、学校運営に支障が生じることのないよう、学校、事業者等と十分な調整を行う。また、(仮称)富秋学園においては、建設物価の上昇が続いており、契約金額と実勢価格の乖離が生じる事態が想定されるため、実勢に応じた提案上限額の設定を行う。
- ②空調整備に関しては、更なる光熱費の高騰が懸念されるため、学校園に対して適正利用を促す。
- ③南松尾はつが野学園増築工事の調整を学校及び建築部局と密に連携を図り、令和6年度備品調達等の供用開始に向けた準備を行う。

※予算額と決算額の差異(914百万円)の要因

- 1) 各種施設整備工事等の入札差金によるため。
- 2) 令和5年度に予定している営繕工事の補助内示があったため補正予算を計上し翌年度へ繰越したため。
- 3) 令和4・5年度の2カ年で行う(仮称)榎尾学園体育館建設工事について、令和4年度の工事出来高が当初想定よりも低く、予算の一部を翌年度へ繰越したため。

●評価委員からの主な意見

小中一貫校整備において、地域の魅力を活かした跡地利用ができるような取組みが望まれる。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	16	事業名	生涯学習環境づくり	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	-----------	-----	--------------------

予算額	700	百万円	決算額	622	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
生涯を通じた「学習活動」の促進	一人ひとりが、生涯にわたり生きがいをもって豊かな人生を歩む	必要なときに必要な学びを提供できる環境整備に努めます	①出前講座の実施 ②「和泉市生涯学習・スポーツ推進計画」を策定 ③青少年の家の活性化を図るため、令和7年度のリニューアルオープンに向けた改修計画を策定
	学習の成果を生かして活躍することができる場の提供と、地域に貢献する人材の育成、さまざまな交流やコミュニティの創出	学習の成果をいかして活動できる場の提供に取り組みます	④いずみ市民大学において、市民ニーズに応じた講座提供を行うことにより、多様な人材を確保し市民相互のネットワークを拡大 ⑤生涯学習人材データベースへの登録を促進

●令和3年度の課題

・ 青少年の家の活性化を図るため、令和7年度のリニューアルオープンに向けた改修計画を策定する必要がある。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

生涯を通じた「学習活動」の促進	<p>①市行政について理解したいという市民からの要望に応じるために、庁内各担当部局の協力を得て、防災や詐欺被害防止など41件の出前講座を実施し、2,790人の参加を得た(R3:23件・784人参加)。</p> <p>②「第2次和泉市生涯学習推進プラン」及び「和泉市スポーツ推進基本計画」に加え、「第3次和泉市子どもの読書活動推進計画」も統合し、これまでの計画には位置づけられてこなかった美術館・文化財・青少年関連施策を含めた新計画を策定することができた。</p> <p>③令和7年度のリニューアルオープンに向けて課題を整理し、青少年の家改修計画を策定することができた。</p> <p>④いずみ市民大学教養学部は、「ピアノ名曲探訪」や「源氏物語」・「幕末・明治維新の英傑に学ぶ」など文学や歴史に関する講座の人気が多く、前期と後期合わせて12講座開催し、694人が受講された(R3:12講座・611人受講)。また、まちづくり学部においても3学科を開催し、52人が受講された(R3:3学科・32人受講)。</p> <p>⑤生涯学習人材データベース登録促進のため、文化協会や各種団体に協力を呼びかけ、新たに4件の登録があった。</p>
-----------------	---

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

③青少年の家を、南部地域の拠点としてより多くの人に利用される施設とするため、令和7年度のリニューアルオープンに向けて基本設計・実施設計を行う必要がある。

④いずみ市民大学は、新たな付加価値(資格取得支援・万博やSDGs等)を加え内容を刷新し、幅広い受講者獲得に向けて取り組む必要がある。

※予算額と決算額の差異(78百万円)の要因

コミュニティセンター舞台照明設備及び生涯学習センター消防設備における各改修工事の入札差金によるもの。

●評価委員からの主な意見

いずみ市民大学について、新しい層の受講者が増えるよう、講座のテーマを検討されたい。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	17	事業名	社会教育環境づくり	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	-----------	-----	--------------------

予算額	4	百万円	決算額	4	百万円
-----	---	-----	-----	---	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
生涯を通じた「学習活動」の促進	学習の成果を生かして活躍することができる場の提供と、地域に貢献する人材の育成、さまざまな交流やコミュニティの創出	多様化する時代に即した地域社会、コミュニティの形成がなされる環境づくりに取り組みます	①社会教育委員会議の開催 ②PTA協議会活動の支援 ③はたちのつどいの運営支援(はたちのつどい企画委員との連携)

●令和3年度の課題

・引き続き、新型コロナウイルスの拡大状況を見ながら、できるだけ社会教育団体等の活動を実施できるよう、リモートなどの方法も検討し、方向性を決定していく必要がある。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

生涯を通じた「学習活動」の促進	①社会教育委員会議を10月と2月に開催し、次期計画の「和泉市生涯学習・スポーツ推進計画」策定や、社会教育団体への補助金交付にあたっての意見聴取を行うことができた。 ②PTA協議会の自主的な活動を促すため補助金を交付し、PTA間の連携強化を図り、親学習・人権教育に関する講演会等を開催するよう支援を行うことができた。 ③1月9日(月・祝)にはたちの集いを6部制で開催し、1,614人(参加率74.2%)の参加があった(R3:1,696人・76.4%)。
-----------------	---

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

③新型コロナウイルス感染症流行が始まって以来、はたちのつどいは従来の1会場3部制から2会場7部制(R1)や1会場6部制(R2~4)で開催してきたが、感染症が5類に引き下げられることや状況の変化に鑑み、開催方法の見直し周知に取り組む必要がある。

●評価委員からの主な意見

コロナの収束により、はたちのつどいがより活性化することを期待する。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	18	事業名	スポーツ施設の運営	担当課	生涯学習部生涯学習推進室スポーツ振興担当
--------	----	-----	-----------	-----	----------------------

予算額	228	百万円	決算額	221	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
スポーツ交流による「人・地域」の親交の醸成	誰もが身近な場所でスポーツに親しみ、生きがいや健康を育む	スポーツを行う環境を整えます	①スポーツ施設の営繕、改修等の実施 ②稼働率向上に向けた取組みを実施 ③市内に10のランニングコースを設定しランニングイベントを実施

●令和3年度の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・市内スポーツ施設の老朽化及び利用者の要望に応じた修繕・改修等を実施する必要がある(コミュニティ体育館屋上改修、光明池球技場管理棟外壁等改修工事等、温水プール大規模改修計画策定)。 ・各施設の稼働率の向上に向けた継続検討を行う。 ・惣ヶ池こどもグラウンドの条例化を行う。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

スポーツ交流による「人・地域」の親交の醸成	<p>①スポーツ施設の営繕、改修(コミュニティ体育館屋上改修、光明池球技場管理棟外壁等改修工事等)を行い、市民が利用しやすい環境整備を実施した。</p> <p>②指定管理者と協議のもと、総合スポーツセンター野球場において平日の稼働率向上のため優先予約や夜間ナイター半額キャンペーンなどを実施したが、実施期間対前年度比で5.7%減となり効果を認めなかった。</p> <p>③市内に10のランニングコースを設置し広報いずみで市民に広く周知した。また、光明池周回コースにおいてランニングイベントを実施し、33人が参加した。</p>
-----------------------	--

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

- ①社会体育施設の老朽化に対して、市民が気持ちよく運動できるようスポーツ施設の営繕、改修を計画的に実施する。
- ②各施設の稼働率の向上のため、指定管理者と協議検討を実施する。
- ③ランニングコースについて周知・活用を実施する。

●評価委員からの主な意見

利用者の意見を集約しながら、稼働率向上に向けた取組みについて検討されたい。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	19	事業名	スポーツ活動の普及	担当課	生涯学習部生涯学習推進室スポーツ振興担当
--------	----	-----	-----------	-----	----------------------

予算額	31	百万円	決算額	26	百万円
-----	----	-----	-----	----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
スポーツ交流による「人・地域」の親交の醸成	スポーツを通じて地域の仲間たちと親交を深める	スポーツ活動の仕組みづくりに取り組みます	①優秀成績者の活動報告や活動奨励の実施 ②指定管理者と連携し、トップアスリートによる教室を実施 ③第70回記念大会として、信太山クロスカンントリー大会を実施

●令和3年度の課題

- ・学校体育施設開放事業に係る利用者実費負担について継続検討を行う。
- ・スポーツ振興奨励費制度のあり方を検討する。
- ・感染拡大防止策を含めたイベント実施の検討を行う。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

スポーツ交流による「人・地域」の親交の醸成	<p>①スポーツ振興奨励費について、近畿大会出場者17件、全国大会出場者127件、世界大会出場者3件、合計147件、100万円の交付を行うとともに、広報いずみ及びホームページにその活躍を掲載し周知することができた(R3：108件・66万3,000円)。</p> <p>②指定管理者と連携し、IZUMI Mizuno victory clinic2022を開催。市民体育館においてプロ卓球選手・平野美宇氏による卓球教室を実施し72人が参加し、109人が観覧した。</p> <p>③第70回記念大会として信太山クロスカントリー大会を実施。ゲストランナーとして4大会連続五輪出場の福土加代子氏を招いた。さらに参加者にはオンラインマラソンも参加できるように企画し、前回大会を上回る1,394人の申込があった(前回大会・令和元年度・67回・1,111人)。</p>
-----------------------	---

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

- ①スポーツ振興奨励費のあり方について、大会種別ごとの奨励額等について整理し、令和5年度から増額実施を予定しているが、他市の動向や社会情勢を注視し、引き続き検討する。
- ②引き続き、指定管理者と連携し市民がトップアスリートと触れ合える機会を創出する。
- ③信太山クロスカントリー大会や各種イベントにおける参加者増加が課題であり、周知方法等を検討する。

●評価委員からの主な意見

イベントの内容や実施状況について、評価できる。
市民が日常的に楽しくスポーツを楽しめるよう、さらに企画を工夫し広報活動に取り組みたい。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	20	事業名	文化芸術活動	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	--------	-----	--------------------

予算額	40	百万円	決算額	39	百万円
-----	----	-----	-----	----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
豊かな創造性と郷土愛を育む「文化・芸術」の振興	市民生活を心豊かで、潤いあるものとする	市民の創造性豊かな文化・芸術活動を支援します	①市民文化祭において、幅広い分野の参加者を受け入れる。また、文化協会の協力を得て、市民が身近に文化を感じられるよう体験教室を開催 ②太鼓教室や太鼓体験教室の開催や活動支援によるいずみ太鼓の振興 ③市主催イベント開催時に文化協会の協力を得、市民が文化にふれる機会を提供

●令和3年度の課題

- ・コロナ禍で実施できなかった文化芸術の継承・発展のため、市内各学校園と文化協会各部会が連携して子どもたちに様々な文化体験ができる機会を検討する。
- ・市民文化祭への一般参加(文化協会非会員)が増える方策について検討する。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

豊かな創造性と郷土愛を育む「文化・芸術」の振興	<p>①10月21日(金)～12月4日(日)に市民文化祭を開催し、展示の部第1期～第3期は6,820人、演技の部は3,104人が来場され、身近な場所で文化・芸術に触れることができた。</p> <p>また、文化協会の協力により成人教室(茶道・華道・琴)を開催したところ、茶道26人、華道11人、琴7人が参加された。</p> <p>②太鼓教室や太鼓体験教室を開催し、日頃の練習の成果を披露する場として、12月3日(土)・4日(日)に3部制で「いずみの国太鼓クリエイション2022」を開催し、計1,171人が来場された。</p> <p>③文化協会の協力により、1月21日(土)新庁舎グランドオープンイベントでは茶道部門による呈茶、華道部門による生け花の展示を行い、2月23日(木・祝)いずみ国際交流フェアでは、盆栽部門と水墨画部門による体験コーナー、水墨画パフォーマンスを披露され、多くの市民に文化・芸術にふれる機会を提供することができた。</p>
-------------------------	---

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

③文化芸術の振興発展のため文化協会と連携し、今後も様々な機会を通じて市民が文化・芸術に触れる機会を提供するとともに、文化協会と学校・幼稚園・保育所等との連携により、次代を担う子どもたちが様々な文化体験をできる機会を提供する必要がある。

●評価委員からの主な意見

文化芸術活動について、他市の事業も参考にしながら今後の活動、取組みを検討するののも一つの方法である。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	21	事業名	文化財の調査研究・保護継承	担当課	生涯学習部文化遺産活用課
--------	----	-----	---------------	-----	--------------

予算額	96	百万円	決算額	65	百万円
-----	----	-----	-----	----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
豊かな創造性と郷土愛を育む 「文化・芸術」の振興	地域の歴史資源や文化資源の保全に努めるとともに、これら資源に触れ合う機会を創出し、市民の誇りと郷土愛を育む	文化財の調査研究・保護継承に取り組みます	①学校教育室と連携し、郷土史読本の作成 ②史跡池上曾根遺跡保存活用計画及び再整備計画に基づき、(仮称)池上プレイステージ整備に向けた設計を実施 ③文書館業務検討委員会の答申を踏まえ、文書館の具体化

●令和3年度の課題

- ・ 学校教育室等と連携し、郷土史読本を作成し、小学6年生～中学2年生の歴史の授業のほか、地域学習や総合的な学習など学校での活用を進める。
- ・ 史跡池上曾根遺跡保存活用計画及び再整備計画に基づき、(仮称)池上プレイステージ整備に向けた設計を実施する。
- ・ 和泉市文書館業務検討委員会の答申を踏まえ、文書館の具体化を進める。
- ・ 泉井上神社和泉五社惣社の保存修理事業に引き続き取り組むとともに、文化財所有者の負担軽減策を検討する。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

豊かな創造性と郷土愛を育む 「文化・芸術」の振興	①分かりやすく編集した郷土史読本『こがねちゃんとおかけよう！ いずみ歴史さんぽ』を刊行することができた。 ②池上曾根史跡公園の保存と活用を図るため、(仮称)池上プレイステージの基本設計及び実施設計を行うことができた。 ③総務管財室と定期協議を行い、関連例規(条例、評価選別基準、公開基準)や書庫設置場所の検討を進めることができた。
-----------------------------	---

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①郷土史読本の普及と活用を図るため、刊行記念講演会を開催するほか、学校教育室や社会科部会と連携して、郷土史読本の授業での活用を進める。 ②史跡池上曾根遺跡の再整備計画に基づき、利便施設や復元施設の設計を行うため、文化庁との協議を進める。 ③文書館のソフト(例規等)及びハード(設置場所・書庫)の具体化を図るため、引き続き関係課と定期的な協議を行う。
--

●評価委員からの主な意見

郷土史読本については、学校での活用の他、一般にも広く普及するよう取り組んでいることは評価できる。 どういう方が入手してくれているのかを把握することで、いろんな施策に活かすことができる。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	22	事業名	文化財の活用	担当課	生涯学習部文化遺産活用課
--------	----	-----	--------	-----	--------------

予算額	70	百万円	決算額	54	百万円
-----	----	-----	-----	----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
豊かな創造性と郷土愛を育む 「文化・芸術」の振興	地域の歴史資源や文化資源の保全に努めるとともに、これら資源に触れ合う機会を創出し、市民の誇りと郷土愛を育む	史跡公園や歴史館など歴史学習の場の提供・活用に取り組みます	①池上曾根イベントマラソンを実施 ②信太の白きつねモニュメントを活用し、和泉・信太の森ヒストリータウン事業を推進 ③歴史館、ふるさと館での歴史講座のほか、歴史ウォーク、歴史トークを実施

●令和3年度の課題

- ・信太の白きつねモニュメントを活用し、和泉・信太の森ヒストリータウン事業を推進する。
- ・文化財活性化事業の実施内容について新型コロナウイルス感染症拡大防止対応を踏まえた見直しを行う。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

豊かな創造性と郷土愛を育む 「文化・芸術」の振興	①池上イベントマラソンを令和4年3～6月に開催し、来園者の増加と遺跡のPRを行うことができた。 ②和泉・信太の森歴史タウン事業の一環として、歴史タウンガイドブック『信太の森の古墳たち』を刊行することができた。 ③新たな講座として、池上曾根弥生情報館において、池上曾根寺子屋を開催し、好評を得ることができた。
-----------------------------	---

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①令和8年度の一部リニューアルオープンに向け、池上曾根遺跡の活用手法の検討を進める。 ②信太の森ふるさと館及びびいずみの国歴史館において、文楽協会の協力もと「葛の葉展」を開催し、歴史タウンのPRにつなげる。 ③新型コロナウイルスの状況も見据えつつ、歴史講座やウォークイベントなどを実施し、文化財を活かした地域活性化を図る。

●評価委員からの主な意見

文化遺産施設に訪れてもらうことも大切だが、学校で学習の機会をもつような方法を検討することも有意義である。
--

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	23	事業名	美術館の運営	担当課	生涯学習部久保惣記念美術館
--------	----	-----	--------	-----	---------------

予算額	291	百万円	決算額	243	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
豊かな創造性と郷土愛を育む 「文化・芸術」の振興	地域の歴史資源や文化資源の保全に努めるとともに、これら資源に触れ合う機会を創出し、市民の誇りと郷土愛を育む	久保惣記念美術館の施設や所蔵品を活かし美術に触れ合う機会・活動の場の創出に取り組みます	①年6回の展覧会の開催、音楽ホールでのコンサートや講演会の実施、市民ギャラリーの会場貸し出しを実施 ②茶室の耐震補強工事の実施 ③和泉・久保惣ミュージアムタウンコンソーシアムによるミュージアムタウン事業の推進

●令和3年度の課題

- ・新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、休止や縮小中の業務の再開を検討する。
- ・和泉・久保惣ミュージアムタウンコンソーシアムの活動を軌道に乗せるための継続的な事業実施の取組を検討する。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

豊かな創造性と郷土愛を育む 「文化・芸術」の振興	①新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらの事業継続であったが、40周年記念特別展と同時開催の当館初となる現代美術の展示をはじめ、40周年を記念したコレクションの歩み全4部の、6つの展覧会を開催することができ、入場者数も少しずつ回復している。(R3:11,024人 R4:19,646人) ②工事業者を選定し、10月から着工している。 ③コンソーシアムの収入として自販機売上げが計上され、ホームページも稼働し、改修が完了した古民家の活動拠点も事業を開始し、目標値を達成することができた。(R4 目標:1,790人 実績:2,545人)
-----------------------------	--

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①②施設の老朽化が顕著で、不具合箇所が増えてきているため、緊急修繕が増えている。今後、50周年に向けて運営ビジョンを策定し、それに基づいて、施設改修の計画を立てる予定である。また庁内の関係課で運営ビジョンの策定準備会議を立ち上げ、美術館の存在意義や使命について共有を図る。
--

●評価委員からの主な意見

観光資源という側面もあるので、多様な魅力ある企画等で市のPRと紐づけて取り組まれたい。 老朽化への対応は、部署間連携を上手く行う、知名度を上げることによる寄附の強化など、予算の確保に努められたい。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	24	事業名	青少年の健全育成	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	----------	-----	--------------------

予算額	6	百万円	決算額	5	百万円
-----	---	-----	-----	---	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
将来を担う青少年の育成	健やかな青少年の育成	社会環境が及ぼす青少年への影響配慮や地域による見守りなどに取り組みます	①こども会育成連絡協議会の活動支援 ②非行防止などの啓発、意識高揚をめざした「青少年を非行から守る」市民大会を開催するとともに、周知方法を見直し、より効率的で効果的な広報活動を実施 ③こども110番事業の実施

●令和3年度の課題

- ・「青少年を非行から守る」市民大会の参加者増加に向け、大会内容の見直しや効果的な広報活動を実施する必要がある。
- ・青少年に対する情報モラルの啓発に取り組む必要がある。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

将来を担う青少年の育成	<p>①こども会の自主的な活動を促すため補助金を交付し、相撲大会やドッチビー、オセロ大会の開催による地域に根ざした子どもの健全育成を支援することができた。</p> <p>②7月9日(土)、第40回「青少年を非行から守る」市民大会の一環として“ネットコミュニケーション”をテーマにした講演会を開催し、ネットの利活用について改めて考え、青少年の健全育成に対する一層の意識の高揚を図ることができた。</p> <p>③地域の子どもは地域で守り、子どもが安心して暮らせる環境を確保することを目的として協力世帯に「こども110番」の旗を掲げていただくため、広報いずみやホームページで新規協力世帯を募集し、損傷の激しい旗を随時入れ替えた。令和4年度は116件の新規協力世帯の登録があり、古くなった516本の旗を入れ替えることができた。</p>
-------------	--

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

②青少年の健全育成の機運を高めるため、「青少年を非行から守る」市民大会の参加者増加に向けて、大会内容の見直しや効果的な広報活動を実施する必要がある(参加実績：H30 121人、R1 110人、R2 中止、R3 中止、R4 100人)。

●評価委員からの主な意見

こども110番の協力世帯が増えたことは評価できる。こういった情報を公開していくことで、住民の方との一体感を醸成しながら、引き続き事業に取り組まれない。

「青少年を非行から守る」市民大会については、アンケート等意見を聞きながら内容の充実に取り組まれない。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	25	事業名	放課後等の児童の健全育成	担当課	教育・こども部こども未来室幼保育成担当
--------	----	-----	--------------	-----	---------------------

予算額	487	百万円	決算額	391	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
将来を担う青少年の育成	健やかな青少年の育成	安全・安心して過ごせる児童の放課後活動の場の提供や次世代育成の観点による放課後活動対策に取り組みます	①留守家庭児童会においてきめ細やかに適切な保育が行えるよう、支援員の資質向上のための研修を実施 ②留守家庭児童会において待機児童を発生させないため、必要な教室数及び支援員確保 ③放課後子ども教室の全ての小学校区での実施を継続、実行委員会形式で実施できる校区の増加

●令和3年度の課題

- ・支援員の人員確保の一方で、子どもたちが安心して安全に過ごせる環境を整え、きめ細やかに適切な保育が行えるよう、支援員の資質向上のための研修を継続する必要がある。
- ・保育環境向上のため、経年劣化が進む空調設備について引き続き計画的・継続的な更新の必要がある。
- ・入会児童数の増加が続く留守家庭児童会において、適正数のクラス設置のため、空き教室の確保又は施設整備の必要がある。
- ・児童が安全に安心して過ごせる地域の受け皿として放課後子ども教室を開催できるよう、地域の実行委員会に対し情報提供を行い、学校とも連携しながら取り組む必要がある。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

将来を担う青少年の育成	<p>①コロナ禍ではあるが、検温や換気を徹底し定員を増員し、対象をテーマによって限定したうえで、2日に分けてより多くの支援員に受講していただくなど、感染防止対策を工夫しながら研修を年間11回開催し、支援員の資質向上に取り組んだ。</p> <p>②入会児童数が増加している信太留守家庭児童会において、令和5年4月から1クラス増設するため、学校の空き教室を確保し、開設準備を行った。また、支援員確保のため求人サイトを活用し、求人サイトの実績としては、31人(基幹支援員1人・補助支援員30人)を採用し人員確保に努めた。</p> <p>③児童が安全に安心して過ごせる地域の受け皿として放課後子ども教室を開催できるよう、地域の実行委員会に対し情報提供を行い、また、事業の継続・強化を図るため担当者会議を対面開催し、コロナ禍での各実行委員会の取組等、情報共有を図ることができた。</p>
-------------	--

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

- ①支援員の人員確保の一方で、子ども達が安心して安全に過ごせる環境を整え、きめ細やかに適切な保育が行えるよう、支援員の資質向上のための研修を継続する必要がある。
- ②入会児童数の増加が続く留守家庭児童会において、適正数のクラス設置のため、空き教室の確保又は施設整備が必要である。
- ③児童が安全に安心して過ごせる地域の受け皿として放課後子ども教室を開催できるよう、地域の実行委員会に対し、実施マニュアルや取組み事例の情報提供・共有を行い、学校とも連携しながら取り組む必要がある。

※予算額と決算額の差異(96百万円)の要因

留守家庭児童会の基幹支援員について、85人の雇用を見込んでいたが、実際は64人の雇用に止まったことである。

●評価委員からの主な意見

待機児童が発生しないよう引き続き人員確保に努めるとともに、安全面、質への対応にもしっかりと取り組まれない。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	26	事業名	青少年センター活動	担当課	生涯学習部生涯学習推進室青少年センター
--------	----	-----	-----------	-----	---------------------

予算額	31	百万円	決算額	28	百万円
-----	----	-----	-----	----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
将来を担う青少年の育成	健やかな青少年の育成	子ども同士の交流ができる活動の場の提供に取り組みます	①ユースゼネレーション(小中学生対象の講習講座や野外活動)等講習・講座の提供 ②子どもすこやか広場事業「どろんこ子ども会」の実施 ③(仮称)多世代交流拠点施設における青少年健全育成機能の検討

●令和3年度の課題

<p>・今後も継続してアンケート調査を実施し、利用者ニーズの把握に努めるとともに、青少年の健全育成や子どもの居場所づくり等を踏まえた個別事業の見直しに取り組んでいく必要がある。また、(仮称)多世代交流拠点施設基本計画の策定以降、当該拠点施設における青少年健全育成機能についても検討を進めていく。</p>

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

将来を担う青少年の育成	<p>①コロナ禍でもユースゼネレーションは、定員を上回る応募があり(延べ参加者数771人)利用者ニーズに配慮した講座内容や定員を見直し、実施することで、青少年の体験や交流の場を提供することができた。</p> <p>②どろんこ子ども会(延べ参加者数7,193人)では、学校の放課後や長期休みにおける安全、安心な居場所を提供することで、集団活動や遊びを通じて子どもたちの交流を図ることができた。</p> <p>③(仮称)多世代交流拠点施設で実施する事業に必要な諸室及び設備等について、関係課及びコンサルタント業者と協議・調整を行い、同施設整備事業者公募時に提示する要求水準書(案)(都市政策室作成)に反映させた。ソフト事業については、人権文化センターと今後も引き続き調整していく。</p>
-------------	--

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①各講習講座については、引続きアンケート調査を実施し、利用者ニーズの把握に努めるとともに、青少年の健全育成や子どもの居場所づくり等を踏まえた個別事業の見直しに取り組んでいく必要がある。また、(仮称)多世代交流拠点施設基本計画に基づき、当該拠点施設における青少年健全育成機能について、関係課とともに検討を進めていく。

●評価委員からの主な意見

実施している講習講座について利用者ニーズの把握に努めるなど、個別事業の見直しを含む幅広い取組みについて、評価できる。今後の「多世代の交流拠点」としての青少年センター活動の充実に期待したい。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	27	事業名	図書館の運営	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	--------	-----	--------------------

予算額	389	百万円	決算額	376	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
生涯における読書振興	生涯を通じた学習の一翼を担う読書の振興	図書の提供だけでなく調査・探究を手助けする情報拠点として、図書館の管理・運営に取り組みます	①2館2室の指定管理者による管理運営 ②図書館システムの更新 ③自習室予約システムをオンラインで空席状況の確認及び予約ができるシステムに改修

●令和3年度の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・図書館システムについて、令和4年度末で導入から5年を迎え、ブラウザのサポート終了等で更新の必要が生じていることから、今後求められるサービスを考慮し新システムの検討をしていく。 ・自習室のアンケート結果から、「混雑して利用できない」「現地に行かなければ空席状況を確認できない」等の声を踏まえ、公共施設の一部を自習室として拡充し、オンラインで空席状況の確認および座席予約ができるシステムを導入し、利用促進を図っていく。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

生涯における読書振興	<p>①指定管理者が持つノウハウを生かし、図書館事業の充実に努めた。また、講演会やワークショップ開催により、読書の振興と図書館利用促進を図ることができた。</p> <p>②ハードウェアの老朽化、ブラウザIEのサポート及びメーカー保守が終了することから図書館システムの更新を行い、クラウド型サービスを導入することにより、利便性向上と運用負荷軽減・セキュリティと事業継続性を向上させることができた。</p> <p>また、読書と並行してインターネットを利用したいというニーズがあり、あらゆる世代の情報拠点としての機能を備えるために、市内図書館及び自習室にWi-Fi環境の整備を行った。</p> <p>③自習室の予約システムを改修し、インターネット上で空席状況の確認及び座席予約ができるシステムを導入し、利用者の利便性を向上させることができた。</p>
------------	--

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

<p>③令和4年度に、市内図書館及び自習室へのWi-Fi環境整備や自習室の増設、自習室予約システムの改修を行ったものの、市民への周知が十分にできていないため、今後の課題として、いずみメールやデジタルサイネージの活用など積極的な広報周知を行い、自習室の利用率の向上を図る必要がある。</p>
--

●評価委員からの主な意見

<p>Wi-Fi環境の整備については、広報いずみや館内での案内文掲示など、様々な方法で周知されたい。 また、Wi-Fiを整備したことによる来館者の層の変化や傾向をつかむことで、今後の施策に反映できる。</p>
--

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	28	事業名	子どもの読書推進	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	----------	-----	--------------------

予算額	1	百万円	決算額	1	百万円
-----	---	-----	-----	---	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
生涯における読書振興	生涯を通じた学習の一翼を担う読書の振興	子どもたちが読書を通じ生きる力を育めるよう、子どもの頃から読書に親しめる環境づくりに取り組みます	①図書館を使った調べる学習コンクールや、小学生読書おたよりコンクール・中学生POPコンクールの実施 ②18歳以下の子どもへの「ぶっくんつうちょう」(通帳型読書記録帳)の無料配付並びに周知拡大 ③市内小学校新1年生への図書館カード配付

●令和3年度の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により、従来のような大人数を集める講演会や親子で触れ合えるような講座の開催が難しいため、オンデマンドや少人数規模の講演会を複数回実施する等、今後は社会情勢に対応した事業内容を検討していく。 ・学校図書館と市立図書館の将来的なシステム連携も含め、子どもの読書活動の推進に共同で取り組んでいくため、児童生徒へ図書館カードを配付したが、図書館施設及び電子図書館の利用促進に向けた広報活動を強化する必要がある。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

生涯における読書振興	<p>①図書館を使った調べる学習コンクールは71点の応募があり、全国コンクールに進んだ受賞作品のうち2作品が佳作を受賞した。小学生読書おたよりコンクールは低学年の部に162点、高学年の部に159点、中学生POPコンクールには24点の応募があり、コンクールを通じた読書啓発を行うことができた。</p> <p>②「ぶっくんつうちょう」のポスターを各市立図書館に掲示し、「ぶっくんつうちょう」を普及させることができた(R3:1,382冊→R4:1,154冊)。</p> <p>③こどもの図書館利用や電子図書利用を促すため、令和3年度に市内小・中学生の図書館カード未所持者に図書館カードを配付して以来の本事業については、令和4年度も市内小学新1年生を対象に図書館カード未所持者899人に配布することができた。</p>
------------	--

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

・こどもの読書習慣の形成・読書活動の推進に取り組んでいくためには、関係部局が連携し、将来的には学校図書館と市立図書館のシステムを連携させることを含め、共同で取り組んでいく必要がある。

●評価委員からの主な意見

学校図書館と市立図書館のシステム連携について、検討を進められたい。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

取組項目番号	29	事業名	国際交流	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	------	-----	--------------------

予算額	5	百万円	決算額	2	百万円
-----	---	-----	-----	---	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和4年度の主な取組内容(3項目以内)
国際交流の推進	多様な価値観を学び認め合う国際交流の推進	国籍や文化の違いを超えて、互いを尊重し、ともに活躍できるグローバル人材育成のため、国際交流の推進に取り組みます	①姉妹都市米国ブルーミントン市の小学校絵画展に参加。「日本と世界の子ども作品展」で友好都市中国南通市や台湾と作品交換展示を実施 ②日本人市民と外国人市民の交流促進と相互理解のため、いずみ国際交流フェアを開催 ③国際交流ニュースの発行や、小学校での出張講座により国際交流事業や友好姉妹都市交流を紹介

●令和3年度の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・交換学生相互派遣事業以外にも、友好姉妹都市と文通や絵画交換展示、ビデオレター交換等、交流の機会を拡充し市内の子どもの参加を促す。 ・交換学生派遣事業参加者が国際社会で活躍するグローバル人材となるよう国際交流事業への参加や協力を促し、国際社会にふさわしい人材を育成し、市の国際化の好循環を築く。 ・和泉市交換学生派遣事業参加者で、国際社会で活躍している人物がいれば、国際交流ニュース等で紹介する。 ・交換学生の対象を主に中学生とし、国際社会で活躍できる人材の育成に努める。

点検・評価報告書(令和4年度事業)

●令和4年度の事業評価

国際交流の推進	<p>①5月にブルーミントン市で開催されたブルーミントン市公立学校絵画展に、市内小学生の作品12点を出品。11月12日(土)・13日(日)に開催した「日本と世界の子ども作品展」では、市内の園児・児童・生徒は365人59点、南通市から40点、台湾から50点の書道や絵画の応募があり、作品の交換展示を行うことができた。</p> <p>②2月23日(木・祝)、食や衣装、遊びやステージ等、様々な世界の文化を体験できる「いずみ国際交流フェア」を開催し、日本人市民と外国人市民が交流を深めることができた。</p> <p>③国際交流ニュースを発行し、広報いずみと共に全戸配布した。また、2月20日(月)には、黒鳥小学校で3・4年生を対象として、ブルーミントン市交換学生派遣事業の紹介を行い、国際交流の推進に取り組むことができた。</p>
---------	--

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①令和5年度、新型コロナウイルス感染症流行以来中止していた交換学生・マラソンランナー相互派遣の再開を予定している。交換学生として中学生6人を公募選考し、ブルーミントン市に派遣することにより、国際感覚を養い市の国際交流の担い手になっていただくとともに、派遣学生のみならず市内中学生の国際交流や万博への関心、英語学習意欲を高める必要がある。

※予算額と決算額の差異(執行率40%)の要因

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、交換学生派遣事業及びKIX泉州国際マラソン姉妹都市ランナーの受入を行うことができなかったため。

●評価委員からの主な意見

国際交流については、相互派遣だけでなくコロナ禍で行ったオンライン等での交流も含め、費用対効果も検証しながら再建に取り組まれない。

V 参考資料

1. 教育委員会の活動状況

●教育委員会委員（令和5年4月1日現在）

	氏名	就任～任期	令和4年4月1日時点
教育長	小川 秀幸	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日	小川 秀幸
委員 (職務代理)	深堀 知子	令和2年2月26日～ 令和6年2月25日	藤原 安次
委員	酉家 章弘	令和2年11月9日～ 令和6年11月8日	深堀 知子
委員	久米 ひろみ	令和2年11月9日～ 令和6年11月8日	酉家 章弘
委員	中西 正人	令和4年3月18日～ 令和8年3月17日	久米 ひろみ
委員	小谷 美樹	令和4年12月22日～ 令和8年12月21日	中西 正人

●教育委員会会議

教育委員会会議は、毎月1回の定例会と、必要に応じて臨時会を開催しています。

会議では、市議会に提案する議案のほか、学校教育や社会教育の一般方針や教育内容の方針、教科用図書採択、社会教育委員等の委員の任命などについて、審議、意見交換を行うこととしています。

令和4年度の会議開催状況

定例会	12回
臨時会	1回

開催日	区分	審議議案・主な報告事項
令和4年 4月21日	定例会	議案 ・和泉市教育委員会の事務委任等に関する規則の一部を改正する規則制定について 報告 ・富秋中学校区施設一体型義務教育学校整備に係るデザインビルド事業者選定支援業務について ・令和4年度和泉市豊かな心をはぐくむ授業公開について ・令和4年度いずみ希望塾の申込状況及び受講者数等について ・青少年の家における施設活性化・改修計画の策定について ・史跡池上曾根遺跡再整備計画について
令和4年 5月26日	定例会	議案 ・補正予算について ・事務局職員の処分について 報告 ・学力向上検討懇話会について ・和歌山大学教育学部と和泉市教育委員会との連携協力に関する協定締結について ・第3次和泉市生涯学習推進プラン・第2次和泉市スポーツ推進基本計画策定委員会への諮問について
令和4年 6月23日	定例会	議案 ・なし 承認 ・支援学級介助員事故に係る損害賠償の額の決定及び和解並びに損害賠償の支払いに係る補正予算について

開催日	区分	審議議案・主な報告事項
令和4年 6月23日	定例会	報告 ・富秋中学校区施設一体型義務教育学校の校名案の決定について ・桃山学院教育大学と和泉市教育委員会との連携協力に関する協定締結について ・令和4年度和泉市子どもの夢応援奨学金について ・池上曾根イベントマラソンの期間延長について
令和4年 7月21日	定例会	議案 ・和泉市社会教育委員の委嘱について 報告 ・一般社団法人KIX泉州ツーリズムビューローへの職員派遣について
令和4年 8月25日	定例会	議案 ・補正予算について ・和泉市久保惣記念美術館茶室耐震補強工事(1期)請負契約の締結について ・令和5年度使用和泉市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書の採択について ・令和4年度和泉市教育委員会の点検・評価報告書について 報告 ・和泉創発プランの改訂(素案)【教育委員会所管分】について ・和泉市社会教育委員の委嘱について ・第70回信太山クロスカントリー大会 in 大阪和泉について ・地方創生推進交付金事業の事業評価について

開催日	区分	審議議案・主な報告事項
令和4年 9月22日	定例会	<p>議案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和泉市保育の利用に関する規則の一部を改正する規則制定について ・和泉市就学援助に関する規則等の一部を改正する規則制定について <p>承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・債務負担補正(A I ドリル)の取下げ及び債務負担補正(いずみ希望塾)の変更について <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度全国学力・学習状況調査結果概要について ・令和4年度小学生すくすくウォッチ結果概要について ・令和5年度和泉市立南横山小学校小規模特認校児童募集について
令和4年 10月27日	定例会	<p>議案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年和泉市議会第2回臨時会における補正予算について
令和4年 11月10日	定例会	<p>議案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補正予算について ・財産取得について(校務系パソコン) ・令和5年度和泉市立学校教職員人事基本方針について <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)富秋学園整備事業発注スケジュールの変更について

開催日	区分	審議議案・主な報告事項
令和4年 11月10日	定例会	<p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度学校水泳授業屋内プール活用モデル事業について ・(仮称)槇尾学園の通学バス検討進捗状況について ・和泉市生涯学習・スポーツ推進計画素案及びパブリックコメントの実施について
令和4年 12月22日	定例会	<p>議案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)槇尾学園 開校準備進捗状況について ・図書館資料寄附について ・教職員の処分について
令和5年 1月19日	定例会	<p>議案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)槇尾学園への通学手段の検討概要について ・学校水泳屋内プール活用事業の年次計画について ・令和5年度いずみ希望塾の募集について ・令和5年度全国学力・学習状況調査について ・郷土史読本の刊行について ・信太貝吹山古墳の発掘調査について
令和5年 2月2日	定例会	<p>議案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度当初予算(教育委員会関連)について ・補正予算について ・和泉市任期付市費負担教育職員の給与等の特例に関する条例制定について ・和泉市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について

開催日	区分	審議議案・主な報告事項
令和5年 2月2日	定例会	<p>議案</p> <ul style="list-style-type: none"> 和泉市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について 和泉市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について 和泉市美術館条例の一部を改正する条例制定について 不当利得返還請求事件の和解について 和泉市立南松尾はつが野学園増築工事請負契約の締結について 和泉市立小学校・中学校・義務教育学校の教職員管理職人事について <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 信太中学校区の学校適正配置について 青少年の家リニューアル計画について (仮称)和泉市生涯学習・スポーツ推進計画パブリックコメント結果及び素案確定について 和泉市長代表団及び和泉市交換学生代表団の派遣について 「なでしこリーグ参戦に挑戦する和泉テクノFC(女子サッカーチーム)を応援しよう！」ガバメントクラウドファンディングの結果について 「～史跡指定50周年記念事業～池上曾根史跡公園に多目的広場を！」ガバメントクラウドファンディングの結果について

開催日	区分	審議議案・主な報告事項
令和5年 2月2日	定例会	<p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 「和泉のアートを海外に届けたい！和泉シティプラザ20周年をアートで彩ろう！」ガバメントクラウドファンディングの結果について 芦部保育園の民営化に伴う医療的ケア児の受入れについて 「はたちのつどい」における4部制での開催について
令和5年 3月2日	臨時会	<p>議案</p> <ul style="list-style-type: none"> 和泉市留守家庭児童会条例施行規則の一部を改正する規則制定について 事務局職員の処分について 和泉市立小学校・中学校・義務教育学校の教職員一般人事について <p>承認</p> <ul style="list-style-type: none"> 貝吹山古墳フェンス設置事業に関する事業繰越に係る補正予算について
令和5年 3月30日	定例会	<p>議案</p> <ul style="list-style-type: none"> 和泉市スポーツ推進委員の委嘱について 和泉市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則制定について 「和泉市生涯学習・スポーツ推進計画」の策定について 令和5年度「幼稚園に対する指示事項、保育所に対する指導・助言事項」について 令和5年度「学校に対する指示事項」について

開催日	区分	審議議案・主な報告事項
令和5年 3月30日	定例会	<p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称) 富秋学園の進捗状況について ・各種ハラスメント防止指針の改訂について ・令和5年度和泉市教育委員会の点検・評価報告書(令和4年度事業分)(素案)について ・和泉市教育振興基本計画(令和5年度行動計画編)について ・「和泉市立青少年の家」における施設活性化・改修計画(案)について ・「大阪府公立学校長(任期付)」の令和6年度任用に係る意向調査について

●総合教育会議

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4の規定に基づき、市長と教育委員会（教育長及び教育委員会委員）で構成される会議です。

教育に関する予算の編成・執行や条例提案など重要な権限を有している市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図るものです。

総合教育会議では、教育に関する「大綱」の策定、教育の条件整備など重点的に構すべき施策、児童生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に構すべき措置について、協議・調整を行います。

令和4年度第1回総合教育会議

令和4年7月21日（木）開催

議題 ・学力向上に向けた取組について
・本市における生徒指導上の課題の対応について

令和4年度第2回総合教育会議

令和4年9月22日（木）開催

議題 ・本市における生徒指導上の課題の対応について

2. 和泉市教育委員会評価委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、和泉市附属機関に関する条例(昭和32年和泉市条例第43号)第2条の規定に基づき、和泉市教育委員会評価委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第2条 委員会は、和泉市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の求めに応じ、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うに当たり意見を述べるものとする。

(組織)

第3条 委員会は、委員3人以内で組織する。

2 委員は、教育に関する学識経験者から教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、教育委員会が委嘱した日から同日の属する年度の翌年度の末日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

(委員会の招集、議事の特例)

第7条 委員長は、災害その他の理由により委員会を招集することができない場合においては、前条の規定にかかわらず、書面その他の方法により委員の意見を聴取することができる。

(関係者の出席)

第8条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、評価委員会を担当する部署において処理する。

(補則)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、公布の日から施行する。

(招集の特例)

2 施行日又は委員の任期満了日の後最初に行われる会議の招集は、第6条第1項の規定にかかわらず、教育委員会が行う。

附 則(平成27年教委規則第12号)

この規則は、公布の日から施行し、改正後の和泉市教育委員会評価委員会規則は、平成27年4月1日から適用する。

附 則(令和2年教委規則第27号)

この規則は、公布の日から施行する。